

2020年度 授業改善アンケート 2Q 「教員コメント（学生に対するフィードバック）」

講義名	期間名	氏名	教員コメント
法学入門	2Q	青山 浩之	日本国憲法は、第2クォーター火曜日4講目と金曜日3講目の科目で、履修者78名、平均出席者68名（平均出席率87%）という状況で、回答者が65名であった。対面授業と遠隔授業の併用だったので、従来実施していたビデオ視聴など一部制約があった。遠隔授業で配信した資料など受け手の環境（印刷など）に左右されるので、対面授業との間で平等に実施できたか、今後検討していきたい。配布資料の教材がわかりやすいなどの評価を受け、さらに、全体的な満足度も好評価であった。
法学入門	2Q	大倉 司	マイクを使ってほしいとのご意見はマスクを通しての授業で聞きづらかったということもあったかと思えます。多くの教室後列にすわっておられる方にもしっかり聞いていただける話し方に努めたいと思います。授業の「振り返り」を限られた字数でまとめることは難しいとのご指摘に関しては、どのようにまとめるかが評価ポイントでもあるのですが、今後工夫したいと思います。
政治学入門	2Q	金子 敏也	学生数が多くて、学生の政治に対する知識量がまちまちで、ターゲットを絞るのが難しかったです。
日本国憲法	2Q	青山 浩之	日本国憲法は、第2クォーター水曜日1講目と金曜日4講目の科目で、履修者117名、平均出席者96名（平均出席率82%）という状況で、回答者が93名であった。長期間の実習・急な公欠（コロナのため日程変更）などの対応のため、遠隔授業を録画して対応した。多数の公欠者のため、試験を3度にわたり実施し採点が困難であった。「資料やスライドの文字が小さすぎる」と指摘されたが、六法を持参していないため、スライドや資料が細かな文字となり、資料配布する場合は限界がある。
生活と環境	2Q	吉田 淳一	教室（大講堂）は、受講生（70～80人）に比して空間が大きいための音響環境については学生の指摘通りの問題があった。学生の私語については、通常教室以上に全体に響くために大きく聞こえ毎回注意したが、効果は薄かった。講義内容や話し方等をattractiveにするようさらに研究する必要があるものと受け止める。講義期間中の3回のレポート作成に関しては、課題と締切りを3週間前にはそこまでの講義資料とともにTeamsで公開し、講義内容がヒントになることを説明し、さらに提出日前の講義はレポート作成のために早めに切り上げる等の対応を図ったことから、作成時間が不足等のコメントは本人努力不足であると考え。実際、提出されたレポートは期待以上の内容のものが多くみられている。総合して、講義中の無関心学生をいかに減らすかという講義上の工夫が今後必要であると考え。
基礎英語Ⅰ	2Q	信濃 吉彦	楽しいと思っていただければと思いますが、試験の結果は惨憺たるものでした。語彙を増やすことを真剣に考えてほしいです。その意味において次回から区別してみようと思います。
基礎英語Ⅰ	2Q	岡島 徳昭	語学学習に興味を持てるよう教材以外の資料を用意した。毎回学生に問題を解かせ自主学习を促した。授業に関する英文を引用し文法解説に努めた。
基礎英語Ⅰ	2Q	石田 暁子	座席表で出席を確認していたのだが、不安な学生もいたようなので、これからは出席を取るようになろうと思う。能力別クラス分けをしても40名のクラス内にはやはり差があるため、内容が難しいと感じた学生がいたようだ。後期の内容はより難しくなるため、できるだけわかりやすいものになるように意識しなければならない。
英語入門Ⅰ	2Q	石田 暁子	当初の受講者は予想を超える人数だったが、選択科目のため履修登録をしても出席しない学生がいたのが残念だった。課題の提出期限が守られていたことが良かった点である。英語が苦手でも履修し、途中で諦めずに頑張っていた学生もいた。
英語入門Ⅰ	2Q	横田 肇	受講者が4名のため、アンケートは実施せず。
英語入門Ⅰ	2Q	宮嶋 達也	少人数での授業で主に英会話を中心に展開できたので細かな指導ができたと思います。
中国語入門Ⅰ	2Q	村山 豊	中国語は発音が難しく時間をかけて発音練習をしたかったのですが、今回は新型コロナウイルスの影響を考え、発音の練習を控える形になってしまいました。しかし、学生の人数が少なく、学生の授業態度も比較的によかったので、順調に授業を進めることができました。ベトナムの留学生が多く参加していました。彼らは漢字に対する理解が乏しいため、中国語の簡体字を教えるのに苦労しましたが、とても真面目に学んでいました。今後、漢字の書き方をもっと指導していきたいです。
日本語Ⅰ	2Q	石田 暁子	対面授業と遠隔授業の受講者が10名前後でいたい同じ人数だったが、授業の同時進行には無理があるので、別の時間帯で実施した。できるだけ授業内容を変えず、公平な評価を心掛けたが、非常に難しかった。
相談援助の基盤と専門職Ⅱ	2Q	飯浜 浩幸	授業改善アンケートへのご協力ありがとうございました。授業冒頭に学生のみなさまの質問を中心に前回の授業の振り返りし、その後授業を進めていくスタイルを維持しながら、今後もさらに理解を深める授業を心がけていきたいです。
相談援助の基盤と専門職Ⅱ	2Q	飯浜 浩幸	授業改善アンケートへのご協力ありがとうございました。授業冒頭に学生のみなさまの質問を中心に前回の授業の振り返りし、その後授業を進めていくスタイルを維持しながら、今後もさらに理解を深める授業を心がけていきたいです。授業で使用するPwP資料を事前にTeamsに公開した点、とても好評でしたので今後も心掛けていきたいです。今回は新型コロナウイルス感染症対策のため、授業中の学生同士の話し合いの時間をいつもより持つことができませんでしたが、この点も好評でしたので感染防止をこころがけながら、実施したいと思います。
権利擁護と成年後見制度	2Q	大倉 司	マイクを使ってほしいとのご意見はマスクを通しての授業で聞きづらかったということもあったかと思えます。多くの教室後列にすわっておられる方にもしっかり聞いていただける話し方に努めたいと思います。授業の「振り返り」を限られた字数でまとめることは難しいとのご指摘に関しては、どのようにまとめるかが評価ポイントでもあるのですが、今後工夫したいと思います。
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	2Q	櫻井 美帆子	制度は特に複雑でわかりづらかったのではないかと思います。忘れたときは、気軽に声をかけてください。
就労支援サービス	2Q	島山 明子	今年度は、教室環境に合わせた教材の準備、夏期の暑さ対応等、講義をしている側も課題を感じる事が多く、学生の皆さんに負担を感じる講義となってしまったことが大きな反省点です。次年度以降、学生の皆さんのより理解度が高まる授業を検討していきます。

更生保護制度	2 Q	大倉 司	4 年次・国家試験科目ということで履修して下さった方がほとんどであったかと思いますが、必ずしもその範囲にとどまらないのが授業科目としての「更生保護制度」の内容かと思いますが。いずれにしても1単位、試験を含めて8回という設定は履修して下さった方の期待にお応えするには十分ではなかったと反省しております。
西洋美術史Ⅰ	2 Q	金子 敏也	授業の前、テキストを予習している人が少ないように見受けられました。今後は事前にテキストに目を通してもらうように促していきたいと思います。
建築材料	2 Q	小笠原 健	建築材料は、建築学科1年生科目での数少ない専門科目であり、この講座で建築分野の専門用語等を理解することで、今後の専門科目に役立つ基礎知識を修得することを目的としています。よって、その専門用語や建築材料の特徴等を理解する必要があるため、あえて板書中心の授業を実施しています。パワーポイントや教科書だけの視覚的印象では記憶できないと考えての授業形式であることが主な理由です。また、今回は、大学側の不備により、教科書を購入しておらず、授業開始後しばらくは教科書がない状態での講義が続いたため、序盤の講義では板書中心の授業にせざるを得ない状況でもありました。学生が希望する楽な授業をするつもりは一切ありませんし、板書を携帯写真撮影も許可し、さらに留学生向けの遠隔授業を併せて実施しているため、授業の録画映像も併せて配信しています。大学の授業では予習復習の自宅学習時間90分も考慮しての講義を実施していますので、そのことを学生にもっと周知していく必要があると思います。また、アンケートによると全体的には「満足できた以上」の学生が87%とおおむね良好と思われ、また、一年生から専門科目の学習の厳しさを体験するにも良さ経験となったものと思料します。
建築構造力学Ⅰ	2 Q	長森 正	授業改善アンケートのご協力ありがとうございました。授業進行が速い、板書の文字が小さくて見づらいとの指摘がありました。後期以降は改善していきます。個々の理解度を確認しながら進行し、丁寧に進めていきたいと思っています。
建築設備Ⅰ	2 Q	君 興治	授業改善点 今後は、各学生の理解度を個別に確認しながら授業を進めていくようにする。作業量が多い課題に対しては、個別に質問時間を設けるなどして時間配分を工夫する。
建築施工	2 Q	小笠原 健	建築施工は、二級建築士資格試験の「計画・法規・構造・施工」の主要4科目のうちの一つであり、4科目総合点60%以上かつ各科目過半数が二級建築士学科試験のボーダーラインとなっています。この4科目で一番ボーダーラインにとどかず、足切り不合格となるのが、この施工科目であります。当建築学科として、二級建築士および一級建築士の合格者増を目標に掲げており、この「建築施工」については、最重要科目のひとつとなっています。つまり、成績上位者だけではなく、成績下位者の底上げが急務で、元々自己学習できる成績上位の生徒を標準化した講義は想定しておらず、日々の学習を習慣化させ、かつ、学習方法を講義内で修得させるため、講義と小テストを隔隔で実施して、講義内容を小テストで診断していく、まさに国家試験対策の王道を実施している次第です。この講義方法により、日常の復習が徹底化され、成績も目視化できるようにし、競争心を煽ることとで、平均的実力アップを目指したものです。その結果、2名は落第したものの、C評価の学生はおらず、すべてB評価以上で、S評価も多数だすことができました。毎回の小テストならびに定期試験は、二級建築士学科試験レベルの問題を出題し、いかにS評価の実力者を出せるかが、将来の二級建築士試験合格者増のカギとなります。よって、資格試験と同レベルの高難度の定期試験問題でも高得点者が続出している結果からみると、今回の講義は、大成功といえる状況です。講義だけでは、スキルアップはできません。日々の予習復習が欠かせなく、それを長期間継続することが、目標達成の基盤となります。学生アンケートも「満足できた」以上の評価をした学生が、全体の81%とおおむね想定以上の結果を得たものと思料します。なお、この15回の講義内でこの試験対策範囲を網羅するのは、時間的に本当にタイトであるため、履修者の自宅学習をどうさせていくかが課題となります。当然に自己学習を求められることとなりますので、一部のやる気のない生徒からの不平・不満が発生する副作用はあるものの、学力レベルの平均値はかなり高い結果を得ることができたものと思料します。
経営管理論	2 Q	信濃 吉彦	読みやすい教科書を使ったつもりです。理解度を確認しながら授業できなかったのが申し訳ない。しかしながら8割の内容は復習と確認だったはず。次年度からはさらに工夫しようと思います。
文章表現演習	2 Q	津田 昭彦	コロナ禍の中で、試行錯誤を繰り返しながらの授業でしたので、学生に迷惑をかけないようにすることを第一にしました。もともと「文章を書く作法」を習ってきていない学生が多い上に、その状況が学生にあって初めてわかるため、学習効果を上げるため、シラバスの順番を入れ替えることもしました。
キャリアデザインⅠ	2 Q	後藤 哲	学生にとってキャリアデザインは、自身の将来のことと受け止められるように、平易な言葉で解説し、一層、理解度が増すように工夫してゆきたいと思う。特に専門用語が多い分、ベースも含め、ゆっくり、ゆったりを心がけたい
キャリアデザインⅠ	2 Q	山本 一彦	科目の目的は一定程度の達成が得られたと思われる。3学科混在の共通教育科目でもあることから、専攻の異なる受講生の実感に即した事例選択を心掛けたい。4 講目終了後のバス出発時刻との兼ね合いは悩ましいところだが、授業に支障の無い範囲で考慮したい。
現代社会と福祉Ⅱ	2 Q	小早川 俊哉	配布プリントは記述できるよう、スペースを意図的にとっています。記述状況を目視できないので、時間が必要な場合は合図等で知らせてください。リモート授業の場合、通常よりも進捗が遅れるので早足になります。協力をお願いします。
保育者論	2 Q	吉江 幸子	保育者論の講義を真剣に聞いていただいたことに感謝しております。みなさんが前を向いてスライド画面を追いかけ、写真やメモを取る姿(写真もOKにしていました)、撮った写真をすぐにノートに書きうつす行為、どれをとっても前向きな学生の姿を見ることができ、非常に嬉しく有意義な時間となりました、ありがとうございました。オンラインで参加してくれた留学生も時差がありながら遅刻なく毎回参加してくれて一生懸命さが伝わりました。みなさんからのアンケート評価も高評価をいただき、今後の励みとなります、ありがとうございました。
聴覚障害教育総論	2 Q	荒木 広式	毎回、シラバスに基づいた「授業テーマ」を設定し、構想⇒情報収集⇒思考⇒表現の過程を通して、主体的に課題に取り組む姿勢や表現力の醸成を培う授業を展開し、効果があったと考えます。今後も学生一人一人のニーズを大切にするとともに、聴覚障害教育の最新情報や教育現場のエピソードを紹介するなど、さらに興味のある授業づくりに努めます。

心理学研究法	2 Q	吉澤 英里	アンケートにお答えいただき、ありがとうございます。授業内容が難しかったとのコメントがありました。内容自体の変更は考えていませんが、説明をさらに丁寧にしたり、皆さんの理解度をスモールステップで確認などの改善をしたいと思います。
精神保健福祉相談援助の基盤	2 Q	西野 克俊	授業内容についてあまり理解ができなかったが7%あり、板書やパワーポイントの字や図の表現は適切で良かったかについてもあまり適切でないが20%となっているため、さらなる工夫を図り理解を促進できる授業に努めたいと思います。
精神保健福祉相談援助の基盤	2 Q	西野 克俊	全体的には、ある程度満足していただいている評価となっておりますが、とても満足している評価とは言い難いため、さらなる工夫などをしていきたいと思っています。
精神保健の課題と支援Ⅰ	2 Q	佐々木 智城	授業はプリントの他にできる限りDVD等の映像資料を使用し、わかりやすく解説しました。疾患の理解などは文章だけでは理解が難しいので今後も映像を使って分かりやすく進めます。
地誌	2 Q	渡部 斎	コロナ禍、講義内容の変更をせざるをえない状況でした。これからも、講義内容を充実していきたいと考えています。
知的障害教育Ⅰ	2 Q	藤根 収	概ねよい評価をいただきましたが、一部十分に伝えられなかった部分もあると考えられますことから、今後、個々に即した授業をさらに改善してまいります。
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	2 Q	西野 克俊	全体的に満足していただいている評価となっており、とてもありがたく思います。継続して満足してもらえる授業展開を心掛けていきたいとおもいます。
子どもの食と栄養	2 Q	湯浅 頼佳	概ね良い評価を頂きましたが、シラバスについては1名授業前半を欠席しており後半にまとめて補講をした学生に渡しそびれていました。次回からは注意したいと思います。また、授業の内容を理解できているかどうか確認しながら行っていたつもりでしたが次回からは念入りに確認を行ってまいります。
保育内容演習Ⅱ	2 Q	吉江 幸子	保育内容演習Ⅱの履修お疲れ様でした。この科目は、保育所保育指針の5領域「言葉」「表現」に相当するものです。前半はオンライン授業のため説明が多く、保育実習が終わった後に実技演習が入る学生もいましたので、アンバランスな印象だったことと思います。それでも今後の「保育士としての専門性」を理解するうえで、実習という経験値に上乗せして学修できたのではないのでしょうか。保育実技系の科目はこの科目が最後となります、ありがとうございます。
病弱教育	2 Q	高橋 健剛	病弱教育の現状と課題について、具体的に理解できるように配布資料やレジュメ等を工夫していきたい。課題については、できるだけ話し合ったり検討する機会を設定していくことに留意していく。
発達障害等教育総論	2 Q	堀川 厚志	アンケートの結果から、引き続き、より一層理解が深まるよう講義内容の主旨に即した資料内容に整理し、提示の仕方を工夫する。障害に伴う生徒の行動への対応の工夫などの実践紹介等を増やすことなどの改善を行う。
社会思想史	2 Q	金子 敏也	今後はテキストすべてを終えることを目指さず、ゆっくりと読んでいきたいと思っています。
日本文化史	2 Q	牧之内 友	古典を実際に読む授業のためやや難しかったと思われるが、多くの学生が関心を持って授業に臨んでくれた。時間の制約もあり、疑問などには十分答えられなかったところがあるので質問時間をより増やすなど今後改善していきたい。
日本文化史	2 Q	牧之内 友	古典を実際に読む授業のためやや難しかったと思われるが、多くの学生が関心を持って授業に臨んでくれた。時間の制約もあり、疑問などには十分答えられなかったところがあるので質問時間をより増やすなど今後改善していきたい。
身体表現	2 Q	尾西 則昭	評価ありがとうございます。授業の内容・興味・関心を持って頂きありがとうございます。全体的に満足してもらえた様ですので、今後も自分に満足することなく改善・工夫に取組みたいと思います。ありがとうございます。
音楽表現Ⅱ	2 Q	小黑 万里子	音楽表現Ⅱにとって今季の状況（コロナ）で注意をしながら出来る限りの実技指導を致しましたが、保育の現状にとって大切な弾き歌い・表現といった授業が出来ず残念に思っております。これからも教科書・資料等を参考に勉強される事を望みます。
基礎デザインⅠ	2 Q	林 春生	授業に対する理解度が不満の生徒が少しでも居たのが、とても残念である。満足度も6%の人が不満に考えている。これらを払拭するべく、授業内容を改善したい。技術の説明と、なぜこの技術が必要なのかをしっかりと説明する。
デザイン概論Ⅱ	2 Q	梅田 真紀	授業の理解度について、もう少し丁寧に確認していきたいと思っています。パワーポイントの表示や課題についても意見がありましたので、考慮して改善していきます。
キャラクターデザインⅠ	2 Q	三上 いずみ	今年度は課題内容を変更した。そのためか授業への関心がさらに高まり、学生は熱意をもって取り組んだようである。今後は課題発表の方法を工夫したい。
造形論Ⅰ	2 Q	松岡 龍介	この科目は、将来、美術やデザインの専門家として社会で活躍しようとする学生が、在学中に最低限身につけてほしい、知識や、見方、感じ方について、毎回、テーマに沿ったレポートを制作することによって、書き言葉を含めた言葉として各自が“まとめ”る力を養うことを目的としています。したがって、内容は、広汎なテーマを設定します。また、本科目を受講するにあたり最低限の美術に関する用語の知識も必要になると思います。
美術学特講Ⅲ	2 Q	山腰 雅樹	概ね理解出来たよう授業レベルとしては適切なラインだったかと判断しています。可能な限りは現在の主流や現場の環境に準じた授業を行っていますが、この点も評価してもらえて嬉しく思っています。一方で自身で積極的に知識・技術を学んでいく為には、よりWEB制作に対する面白みを感じてもらふ必要があると考えていますので、今後は近年取り入れられているインタラクティブな演出要素もカリキュラムに混ぜながら、より良い授業内容に改善していきたいと考えています。
保育内容演習Ⅲ（環境）	2 Q	吉江 幸子	保育内容「環境」の履修、お疲れ様でした。短期間の授業でしたので、触れる内容の奥深さには欠けていたと思いますが、みなさん最後まで「かいわれ大根成長記録」に取り組んでいただきました。第8回目のプレゼンテーションはどの学生もしっかりとまとめており、事前・事後学修への前向きな取り組み姿勢がうかがえる内容で感心いたしました。2年後半から3年次に向け、保育実習を視野に入れた授業が複数あります、保育士としての専門性を高められるようバックアップしますので頑張ります、ありがとうございます。

施工管理技士演習Ⅰ	2 Q	小笠原 健	この施工管理技士演習Ⅰの講座は「二級建築施工管理技士(学科試験)」を目指すための講座です。通常の建築分野の知識を修得するための科目ではないため、徹底的に国家試験に合格するためのノウハウを獲得する講座となります。また、この試験対策講座の試験範囲は、今までの専門科目の中で修得済みであるものとして講座が開始されています。今までの専門科目でのインプット授業から、修得済みの知識をこの資格対策講座でアウトプットさせるための講義となります。また、この講座については、単位取得が最終目標ではありません。二級建築施工管理技士(学科)試験に合格することが最終目標としていますので、毎回の小テストで高得点を取ることがまさに目標達成の第一歩となります。既に今までの履修科目によって得た実力を存分に発揮させるため、予習型の授業形式をとっていますが、その実力が十分に足りない学生にとっては、通常の復習型自己学習では太刀打ちできないことになります。今までの学習による実力不足があるなら、自己学習でそれを補って、毎回の小テストに臨まなければ、国家資格試験の合格は厳しいものとなります。前職での合格実績から、この講義方法が最善と考えているため、初めて目の当たりにした講義方法に戸惑う学生も少々存在するとは思いますが、十分な自己学習を講義前にしてこない学生には、この資格対策講座に追従するのは難しいと考えています。よって、予め、実施シラバスを別途提供し、事前に学習してくる予習範囲を毎回提示しており、その予習を怠る学生については、低得点となることは当然の結果と言えます。また、この講座は、履修していても市販していないテキストの購入が必要となり、また、国家試験試験の受験料も発生しているため、事前にその趣旨をを説明し、受講学生を募集しています。それに参加する意思がない学生については、履修中止手続きをほとんどの学生がしていますが、一部、授業にも欠席し、テキストも購入せず、国家試験の受験申込みもしていない学生が、1名、突然授業に出席し、教壇を背にしてほかの学生とおしゃべりしていた学生がおり、それが履修者だとしても退出を命じています。
建築士演習Ⅱ	2 Q	佐藤 善太郎	建築士演習Ⅱは遠隔を織り交ぜながらの授業でした。ほとんどの受講者が毎回課題を提出してくれましたので、今後もこのペースでお願いします。
応用物理	2 Q	伊藤 裕康	内容の理解を深めるために、適時、練習問題を解かせていましたが、全員の理解度把握が不十分だったと思います。毎回解答用紙を提出してもらい理解度を把握したいと思います。
鉄筋コンクリート構造	2 Q	長森 正	授業改善アンケートのご協力ありがとうございました。スライドの内容について、わかりやすいとの回答があり、さらに充実させていきます。また課題の回答を授業で解説してほしいとの指摘がありました。授業の進行具合を考慮しながら、できるだけ解説していきたいと思っています。
建築法規Ⅲ	2 Q	佐藤 善太郎	いよいよ3年生の法規の授業です。法規Ⅲは奇跡的に対面でできたため、ほぼ予定通りに進行することができました。内容はいよいよ基準法の根幹たる都市計画に係る内容ですので、今後も十分な復習をお願いします。
建築設備Ⅱ	2 Q	君 興治	授業改善点 今後は、各学生の理解度を個別に確認しながら授業を進めていくようにする。作業量が多い課題に対しては、個別に質問時間を設けるなどして時間配分を工夫する。
日本経済史	2 Q	近藤 保義	声が聞き取りにくいという指摘がありましたが、マスクをしていること、窓と教室の出入り口を開放しているせいもあると思います。でも一番の原因は私の高齢化による声量不足だと思うのでどうしたらいいか考えてみたいと思います。
日本経済史	2 Q	近藤 保義	声が聞き取りにくいという指摘がありましたが、マスクをしていること、窓と教室の出入り口を開放しているせいもあると思います。でも一番の原因は私の高齢化による声量不足だと思うのでどうしたらいいか考えてみたいと思います。
経営情報論	2 Q	山崎 誠	私にとって最初の授業となり最初の数講は内容に試行錯誤がありました。経営情報論の内容はどんどん進化しています。当初、教科書中心に進めたいと思っていましたが実際にレジュメに落とし込むと内容が古く、学生の興味を保てないと思いました。日経クロスチェックなど専門サイトやメルマガを利用し、今、企業はシステム開発にどう取り組んでいるのか、それをどんな情報技術が支えているのかを中心に授業を進めました。今後もその方向を維持し、授業の内容をクリアに保ちたいと思います。
マクロ経済学	2 Q	河野 善文	アンケート結果を見ると、マクロ経済に関する理論的な分析は、学生にとって関心をもちづらい面もあるようです。より多くの人に興味をもってもらえるようにこれからも心がけたいと思います。
まちづくり論	2 Q	松本 認	「時間配分など、授業の進め方」「板書やパワーポイントの表現」「配付資料等の適切さ」「理解度を確認しながらの授業の進行」等々の項目において、まだまだ工夫改善の余地があるようです。今回のアンケート結果を踏まえて、更に努力を重ね、より充実した授業を目指したいと思います。
スポーツ医学	2 Q	黒川 泰任	スポーツ医学は「生理学=ヒトの正常の機能を追求する学問」の一分野です。スポーツが皆にとって一般的であるように、その扱う領域はとても広く、講義で内容の全てを網羅することはできません。講義は「スポーツ医学」のことを考える「きっかけ」に過ぎません。講義を聴いて、1つでも「興味を抱いたこと」を自分で突き詰めてみてください。その方法はどんなやり方でもかまいませんが、一見当たり前と思えることに「なぜ」と振り返ってみる心が大切です。皆さんには、何かの機会にスポーツで人を指導する立場になる状況が必ず来ます。そのときに大学での講義を思い出して、再勉強のきっかけとなれば幸いです。
イノベーションマネジメント論	2 Q	阿部 裕樹	学生の皆さんの理解を深めるため、次年度も社会環境の変化に合わせて生まれた新しい価値に着目し、イノベーションの重要性について紹介していこうと思います。また、Teamsを活用してオンラインのメリットを活かした指導を引き続き行っていきます。
北海道産業史	2 Q	石山 玄幸	アンケートの回答ありがとうございます。16回の講義の中で、北海道の産業史を学ぶということから、ノートを書く量が多くなってしまいますが、皆さんの理解度を高めるための取組みの一環であることを理解してもらえたらありがたいです。
北海道産業史	2 Q	石山 玄幸	アンケートの回答ありがとうございます。16回の講義の中で、北海道の産業史を学ぶということから、ノートを書く量が多くなってしまいますが、皆さんの理解度を高めるための取組みの一環であることを理解してもらえたらありがたいです。
ホビー/クリエイティブマネジメント論	2 Q	五ノ井 壽一	より興味を持ち理解力を高めるように更に工夫・努力致します。
外国語講読	2 Q	岡島 徳昭	英字新聞「The Japan Times」より語学学習の助けとなる記事を選び、日常生活で読まれる英文の理解に努めた。英字新聞の読解を通し、文法の復習と語彙力の向上を目指した。

地域情報論	2 Q	猪尾 紀幸	地方都市、過疎地域の自治体運営、地方企業の取組み事例や時事ニュース等を用いて学生の関心をさらに高める工夫をしていきます。将来、自治体運営や自身の出身地の地域活性化へ関わる際に有益な講義内容となることを心掛けていきます
スポーツ文化論	2 Q	飯部 紀昭	コロナ渦によるオンライン授業から、対面へ。学食や玄関前広場などでの学生たちの交流に「これが大学本来の姿」と共感。授業も昨年までと違い、学生たちの目線に真剣さを感じました。スポーツ関連の授業だけに、東京五輪・パラリンピックの延期には計画変更などで学生ともども戸惑いましたが、無事に進行しました。もう少しビジュアルな授業をというのが、反省点です。
スポーツ文化論	2 Q	飯部 紀昭	コロナ渦によるオンライン授業から、対面へ。学食や玄関前広場などでの学生たちの交流に「これが大学本来の姿」と共感。授業も昨年までと違い、学生たちの目線に真剣さを感じました。スポーツ関連の授業だけに、東京五輪・パラリンピックの延期には計画変更などで学生ともども戸惑いましたが、無事に進行しました。もう少しビジュアルな授業をというのが、反省点です。
体づくり運動	2 Q	細川 賢一	学生アンケートを踏まえ、学生がさらに授業内容を理解できるよう、授業計画を検討し意識を高めたい。
教育課程論	2 Q	西崎 毅	学生は皆頑張りました。「授業満足度」は、「満足した」以上が100%、そのうち「充分満足した」以上が87%でした。「熱意」については、「そう思う」以上が100%、そのうち97%が「充分」以上という評価でした。「私語がほぼなく統制のとれた授業だった」等の感想を励みに一層の授業改善に取り組みます。
教育方法論	2 Q	坂上 俊樹	提示資料は、見やすく、強調点が分かりやすいよう工夫しているつもりであるが、一枚のスライドの文字数が多く読み取りづらい、色が多すぎて見づらいとのご指摘をいただいた。今後、より見やすく、キーワードとなるポイントが絞りの画面となるよう工夫したい。
教育方法論	2 Q	藤根 収	授業に楽しく参加した学生が多くうれしく思いますが、考える時間の設定などアクティブラーニングの展開など、今後も工夫改善して進めてまいりたいと考えます。
教育相談（カウンセリングを含む）	2 Q	佐々木 智城	毎回プリントを配布し、パワーポイント、DVD等の資料を使って分かりやすく進めました。また、学習症の疑似体験など理解に体験が必要なものもあったのでワークで体験してもらいました。体験による理解は大切なので今後も導入し、より分かりやすく進めていきます。
教育相談（カウンセリングを含む）	2 Q	佐々木 智城	毎回プリントを配布し、パワーポイント、DVD等の資料を使って分かりやすく進めました。また、学習症の疑似体験など理解に体験が必要なものもあったのでワークで体験してもらいました。体験による理解は大切なので今後も導入し、より分かりやすく進めていきます。
情報基礎演習Ⅰ	前期	舟橋 誠	本年度は、授業計画前半部分を遠隔授業、後半部分を対面授業となったために、一部シラバスを変更しての実施となったが、定めた到達目標を履修生全員が達成できた。授業のペースについては、履修生の理解度を適宜把握する頻度を増やすことで改善を図りたいと考えている。また、履修生の私語が多いために、他の履修生の学習に支障をきたしている点については、当該履修生に対しこまめに指導を行い、授業内秩序の向上を目指すこととする。
情報基礎演習Ⅰ	前期	舟橋 誠	本年度は、授業計画前半部分を遠隔授業、後半部分を対面授業となったために、一部シラバスを変更しての実施となったが、定めた到達目標を履修生全員が達成できた。授業のペースについては、履修生の理解度を適宜把握する頻度を増やすことで改善を図りたいと考えている。また、教員の操作画面が見えにくい点については、表示機器を増設することが難しいため、リモート会議用のソフトウェアを使用して、操作画面を提示する仕組みを更に推進することとする。
情報基礎演習Ⅰ	前期	舟橋 誠	本年度は、授業計画前半部分を遠隔授業、後半部分を対面授業となったために、一部シラバスを変更しての実施となったが、定めた到達目標を履修生全員が達成できた。最先端のITに関する最新情報を授業内で触れる機会を多くしたことから、多くの履修生から興味関心を得られたのではないかと考えており、今後も注力したい。教室内のマイク設備が不十分である点については、履修生が聞き取りやすい設備の配備を図りたいと考えている。
平面構成Ⅰ(A)	前期	中島 義博	授業内容にわずかながら不満足な学生が存在する事を反省したい。不十分点がないか検証して改善して行きたい。
平面構成Ⅰ(B)	前期	中島 義博	授業内容にわずかながら不満足な学生が存在する事を反省したい。不十分点がないか検証して改善して行きたい。
デッサンⅠ(B)	前期	西田 陽二	全体的にまじめに授業に取り組んでいる姿勢が見られた。「デッサンは学ぶものだ」と理解していると感じる。
デッサンⅠ(A)	前期	西田 陽二	全体的にまじめに授業に取り組んでいる姿勢が見られた。「デッサンは学ぶものだ」と理解していると感じる。
デッサンⅢ	前期	西田 陽二	一部欠席が多く、デッサンの趣旨を理解しないで授業に参加している学生がいた。その他の多数の学生は熱心に取り組んでいたように感じた。
基礎ゼミナールⅠA	前期	櫻井 美帆子	一部、遠隔授業となりコミュニケーションが十分に取れなかったことを残念に思っています。後期は、コロナが落ち着き対面でコミュニケーションが取れるよう祈ります。
スタートアップ演習	前期	伊藤 裕康	建築学科全教員によるオムニバス形式授業です。授業へのふりかえり回答が担当者によって異なりわかりづらかったというコメントをいただきましたので、次年度は統一して示できるようにしたいと思います。
キャリアデザインⅠ	前期	山本 一彦	入国できていない留学生のみを対象とした授業展開だったので、完了するまで不安が大きかったが、概ね授業目的は達成できたようである。次年度、同様の授業実施形式となった場合、外国人の視点でも理解がしやすい事例を用いるよう努めたい。
キャリア支援演習Ⅰ（職業能力開発支援）	前期	横田 肇	まず、私語が目立ち、学習態度の好ましくない学生への対応がしっかりとできなかったことが残念であった。こちらも毅然とした態度が必要と実感した。また、こちらの説明がわかりにくい、スライドが見えにくいということもさらなる改善が必要と感じた。全般的に反省点の多い授業であったと思う。
心理学基礎実験Ⅱ	前期	吉澤 英里	アンケートに回答をしていただき、ありがとうございます。これまでとは違う授業方法で、戸惑うことも多かったと思います。次年度に遠隔授業が継続されるかはわかりませんが、いただいたご意見をふまえつつ、より良い授業になるように改善します。
専門演習ⅠA	前期	大島 康雄	全員が満足いくようなゼミにしていきたいです。そのためにも個別対応ができるような取り組みをしていきます。

専門演習ⅠA	前期	吉江 幸子	3年生の皆さんにとっては、このゼミを選択していただいた最初の授業からオンラインとなってしまいました。実践したいことが計画倒れになった感がありましたが、4年次の論文執筆に向けて各自のテーマ決めに取り組むことができました。それが良かった点だと思っています。
専門演習ⅠA	前期	西野 克俊	満足していただけたみたいでうれしく思います。今後もさらに精進したいと思います。
専門演習ⅠA	前期	畠山 明子	多様な社会問題に関する話題を提供をする中から学生の興味・関心を引き出すことに時間をかけながら、テーマに関する議論を深めるができたと思います。
立体構成Ⅰ	前期	梅田 力	概ね良好な評価をいただいた。遠隔のためTeamsを使って講義する事もあったが、Teamsを使うことで画像の共有等が容易にでき返って充実した面もあった。次年度以降もいい面は取り入れていきたい
デジタルデザインⅠ	前期	上坂 恒章	PCの演習科目であり、授業当初は、遠隔授業であったため、演習時間が不足した感があった。また、コロナ禍の関係で演習グループを2つに分けて実施した。進度が早いという学生もいるので、今後は、改善して実施したい。
イラストレーション基礎Ⅰ	前期	佐藤 正人	今年はコロナ禍で授業が初めての遠隔授業になったり、対面授業が始まって通常の授業体制ではなかったり、シラバス通りに進めず内容を変更したりとコロナ禍の影響がいろいろある中で授業でアンケートでは満足してくれた生徒も多くいたので良かったと思います。次期に向けても満足のしてくれるような授業に取り組んでいきたいと思っています。
工芸実習Ⅰ	前期	梅田 力	オムニバス講義としては初めてであった。5時間1区切りだったので、比較的簡単に出来る課題を選定したが、少し時間が余ってしまった。また技法の伝達は出来たが、デザインを深めることが足りないと感じた。講義の導入部分を改善し、創意工夫のあるデザインとコンパクトに技法の基礎を学べる課題を再設定していきたい。
プロダクトデザインⅠ	前期	林 春生	授業中の男女の行動で問題が挙げられていたのが残念である。授業中ではなく、休み時間でそういう行為はあったと思う。今後はもっと厳しく指導する。授業の理解度の低い生徒が見受けられたが、出席もままならない生徒からなのではないでしょうか？と疑問点が付く。しかし、そのような人が出ないように、もっと丁寧にやさしく、わかりやすいように授業を改善する。
プロダクトデザインⅠ	前期	林 春生	市場調査とその結果から新しいデザインアイデアや提案を導き出すのを悩んでる学生が見受けられた。今後はその点に配慮して授業内容を改善する。
図学Ⅰ	前期	松岡 龍介	この科目は、将来、美術においては幾何学的な立体造形を創作するような事に興味のある学生や、プロダクトデザイナーやインダストリアル・デザイナーとして社会で活躍しようとする学生、あるいは、高校の美術教員（工芸）の教員として指導にあたることを希望する学生たちのための製図表現などにも応用してゆく「図による表現」の基礎となるものです。誰にでも判りやすい内容で、クラスの進度に合わせて基本的な作図を学ぶ内容です。
絵画Ⅰ	前期	西田 陽二	授業の進行に特に問題はない。学生の対応も熱心に感じる。
洋画Ⅰ	前期	安田 祐造	まずまずの評価をいただきましたが、自ら顧みて足りない点や欠けている点が沢山あるように思いますので、これからの課題にしたいと思います。
漫画Ⅰ	前期	三上 いずみ	配布資料・教材についてあまり適切でないという意見が4%あったので今後の課題にしたい。留学生の遠隔授業を同時に行っていたので十分な対応ができていたか心配であったが個別にチャットで補足説明を行ったのが良い結果につながった。
ビジュアルデザインⅠ	前期	田中 靖之	30名のクラスでマンツーマン型指導では十分なアドバイスが出来ず（時間的に）改善が必要と実感した。改善法として、ポイントを絞った演習課題を作成し、密度の濃いワーク（作業）を実施したい。また、クリエイティブ（創造性）の要素を充実させたい。
イラストレーションⅢ	前期	佐藤 正人	今年はコロナ禍で授業が初めての遠隔授業になったり、対面授業が始まって通常の授業体制ではなかったり、シラバス通りに進めず内容を変更したりとコロナ禍の影響がいろいろある中で授業でアンケートでは満足してくれた生徒も多くいたので良かったと思います。次期に向けても満足のしてくれるような授業に取り組んでいきたいと思っています。
テキストデザインⅠ	前期	三上 いずみ	前半は遠隔授業ということもあり動画を作成し技法説明を行った。工程が複雑な技法であるので動画を用いてもわかりづらい部分もあったようである。今後もわかりやすい授業を心掛けたい。
日本画Ⅰ	前期	岡 恵子	今年は特殊な状況だったので、伝わりにくい点があって申し訳ありません。次回、同じような状況になった時、善処できるように検討します。また、用具の件、小テストの件ともに先が見通せない状況だったので、少しでも早く皆さんに日本画の内容に触れていただきたいと思います、行いました。最良の方法ではなかったかもしれませんが、ご理解ください。
コンテンツデザインⅠ	前期	上坂 恒章	PCの演習科目であり、授業当初は、遠隔授業であったため、演習時間が不足した感があった。また、コロナ禍の関係で第1Qは、演習グループを2つに分けて実施した。3年の授業であるので、応用（各自が考える）的に進めた。シラバスに記述している予習、復習を徹底したいと思う。
技法・材料研究Ⅰ	前期	安田 祐造	良い評価を受けられて良かったと思います。良いところはさらに発展させたいものです。皆さんの作品が、公募展において第3者からも認められるように最後まで取り組みます。
彫刻Ⅰ	前期	梅田 力	彫刻という分野に初めて触れる学生が多い中で、毎年課題等を変えながら模索している。本年度はこれまで第一課題として人物をテーマにしていたところを、動物に変更した。比較的積極的に取り組む学生も多く見受けられ、作品の完成度が上がったようにも見える。第二課題の石彫は昨年から継続している。こちらはもう少し継続をしていきたい。次年度以降も模索を続け、学生が楽しめる彫刻入門の講義としていきたい。
工芸実習Ⅲ	前期	星 信彦	序盤のリモート授業の時期もあり、スケジュールがずれ込みました。コロナ感染予防が困難なため吹きガラスを取りやめました。様々な負担を学生に強いる部分があったことを心苦しく感じています。今回のこの様な状況で行ってみて判った改善点を今後に生かします。
漫画Ⅲ	前期	五十嵐・鴨	「漫画Ⅲ／鴨」コメント 授業内容に満足しているとの評価を多く頂きました。 少人数だったことで個別に細かな指導ができたように思います。 完成作品の指導だけでなく、制作の段階で各自の完成に向けた 計画的な打ち合わせをより綿密にできるよう改善を図ります。 今後も個人の力に合わせた指導を目指します。

彫刻Ⅲ	前期	国松 明日香	授業開始時は遠隔による授業だったため、本来の授業の進め方ができなかった。対面授業に戻ってからは、学生は距離を保ちながらも漸く実技科目らしい授業となり、積極的に授業に参加する姿が見られた。アンケート結果からは概ね評価をもらっていると思うが、設問4と設問5では、適切ではないとの回答が8%づつあり、これからは板書、パワーポイントの図や表の表現、配付資料の改善をしなければならないと感じた。
建築設計演習Ⅰ	前期	佐藤 善太郎	この授業は木造の設計課題で、今までの製図の授業とは違い、いよいよ自分で課題条件のプランを考えてそれを図面化するという設計プロセスを学ぶ最初の授業です。特にプランニングには苦戦している学生もいましたが、プランニングは数を熟せばある程度はできるようになります。手順を覚えましょう。
建築設計演習Ⅲ	前期	君 興治	授業改善点 今後は、各学生の理解度を個別に確認しながら授業を進めていくようにする。作業量が多い課題に対しては、個別に質問時間を設けるなどして時間配分を工夫する。
アクションプログラムⅤ	前期	君 興治	授業改善点 今後は、各学生の理解度を個別に確認しながら授業を進めていくようにする。作業量が多い課題に対しては、個別に質問時間を設けるなどして時間配分を工夫する。
建築設計演習Ⅴ	前期	佐藤 善太郎	今年度の設計課題は、RC造兼用住宅の課題群中心の内容で進めていきました。特にRCラーメン独特の設計手法に惑わされた人が何人か居ましたが、木造とは違った「約束事」がたくさんありますので、その構造にあった設計プロセスを修得してください。
社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	前期	渡部 齋	コロナ禍、満足する講義を提供することを心掛けていきたいと思います。
社会科・公民科教育法Ⅰ	前期	松下 守邦	学修目標を、教員の役割意識を理解し行動するとしておりました。そのため履修学生には授業の遅刻欠席、作業課題におけるメール連絡、提出物の体裁を守ることなど、細かいスキルをもとめましたが、積極的学修を進めてもらうことができました。引き続き学生の学修ニーズに応じた、教材提供をおこなえるよう努めます。
美術科教育法Ⅰ	前期	梅田 力	学生から厳しい意見をいただいたが、本講座は教員資格にかかわる講座であり、現在の厳しさを増し続ける教育現場の実情を考えると、厳しい批判があっても、レベルを保ちある程度高い要求を学生に課していく必要があると考えている。批判はおそらく内容が高度であることに起因すると考えるが、その内容や分量を変更していくことは難しい。教える側の努力としては、より時間配分や教授法を検討し、効率よくかつ濃縮された講義になるよう努力していきたい。
工芸科教育法Ⅰ	前期	梅田 真紀	講義や教材研究、課題提出など時間にゆとりを持って丁寧に行うという方針を継続し、授業内容を向上したいと思います。
保健体育科教育法Ⅰ	前期	高井 雅一	オンライン授業やコロナ感染対策の関係で、予定していたグループワークや共同作業が思うようにできなかった。オンラインでの授業の進め方を研修していきたい。
専門演習ⅡA	前期集中	大島 康雄	全員が満足いくようなゼミにしていきたいです。そのためにも個別対応ができるような取り組みをしていきます。
専門演習ⅡA	前期集中	吉江 幸子	コロナ禍の卒論執筆は大変だったと思いますが、4年間の集大成として前に進んでくれました。各自が計画的に進めたことで、学事が変更となっても適応する姿がたくましく感じていました。ありがとうございます。
専門演習ⅡA	前期集中	畠山 明子	2020年度は担当なし。
専門研究ⅠA	前期集中	松岡 龍介	美術やデザインについて考え、そして、創作する、最初の専門科目としての3年生のゼミナールとして、美術やデザインをより幅広く、例えば、さまざまな作品の歴史性や歴史的経緯、と解釈、美術、あるいは、デザインという領域の文化としての側面などについて考えてもらいたいと思います。あるいは、将来の自分が如何に、何を、どのような姿勢や感覚で作品を創作するのかについてもしっかり考えるための科目でもあります。